

授業科目	臨床ゼミナールⅡ				
担当者	吉田 文 (実務経験者)				
実務経験者の概要	精神科病院における作業療法の臨床経験および臨床実習指導の経験				
学科名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

臨床評価学実習Ⅰの記録等を利用して学習を進める。評価内容（観察・面接・検査・測定など）のより深い理解、記録の書き方の復習、記録の修正点と次回の実習のための対策を考える。また、学生自身の作業療法対象者やスタッフとの関わり方について再検討する。さらに、文献等を調べ、作業療法対象者への理解を深め、3年次の評価・治療の理解へとつなげていく。適宜グループでのディスカッションを用い、相互に学習を深める。

■ 到達目標

1. 記録等から、評価内容（観察・面接・検査・測定など）と学生自身の関わり方の課題を説明 することができる
2. 評価やその記録、自身の関わり方の修正を行うための対策を立てることができる
3. 文献等を参考に作業療法対象者をどのように理解できたか説明することができる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、実習の振り返り
- 第2回 担当事例の疾患・障害を調べ直す
- 第3回 自分の苦手と得意の分析、3年に向かっての対策
- 第4回 担当事例と同じ疾患・障害の標準的な作業療法（教科書）
- 第5回 SOAPの復習、記録を読み直す
- 第6回 標準的な作業療法の文献の理解を深める、評価項目の抽出
- 第7回 自分の記録の分析と補足
- 第8回 似ている事例報告の文献を読み、教科書と合わせて不足している評価を考える、評価計画を立てる
- 第9回 自己の実習の振り返りのまとめ 発表PPT作成
- 第10回 担当事例について不足している評価項目を考え、評価計画を立てる
- 第11回 文献の統合と解釈を読み、治療までの流れを理解する、SVの治療の意味を考える
- 第12回 文献を参考に統合と解釈と、今後必要な治療を考える
- 第13回 担当事例の報告についてPPT作成
- 第14回 実習の振り返りと担当事例の報告
- 第15回 実習の振り返りと担当事例の報告

■ 評価方法

リアクションペーパー等の提出物の提出及び内容20%、提出物30%、最終レポート50%
グループワークや演習を交えながら進めるため出席を基本とする。遅刻・早退-2点、欠席-5点の減点とする。但し事前に連絡があり、やむを得ない遅刻・早退・欠席と認められた場合は考慮することがある。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

*授業で提示する課題（復習と予習、A4で1～2枚程度）を次回授業時または定められた期限内に提出すること

■ 教科書

書名：ICF 国際生活機能分類 - 国際障害分類改定版 -

著者名：世界保健機関（WHO）

出版社：中央法規

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって